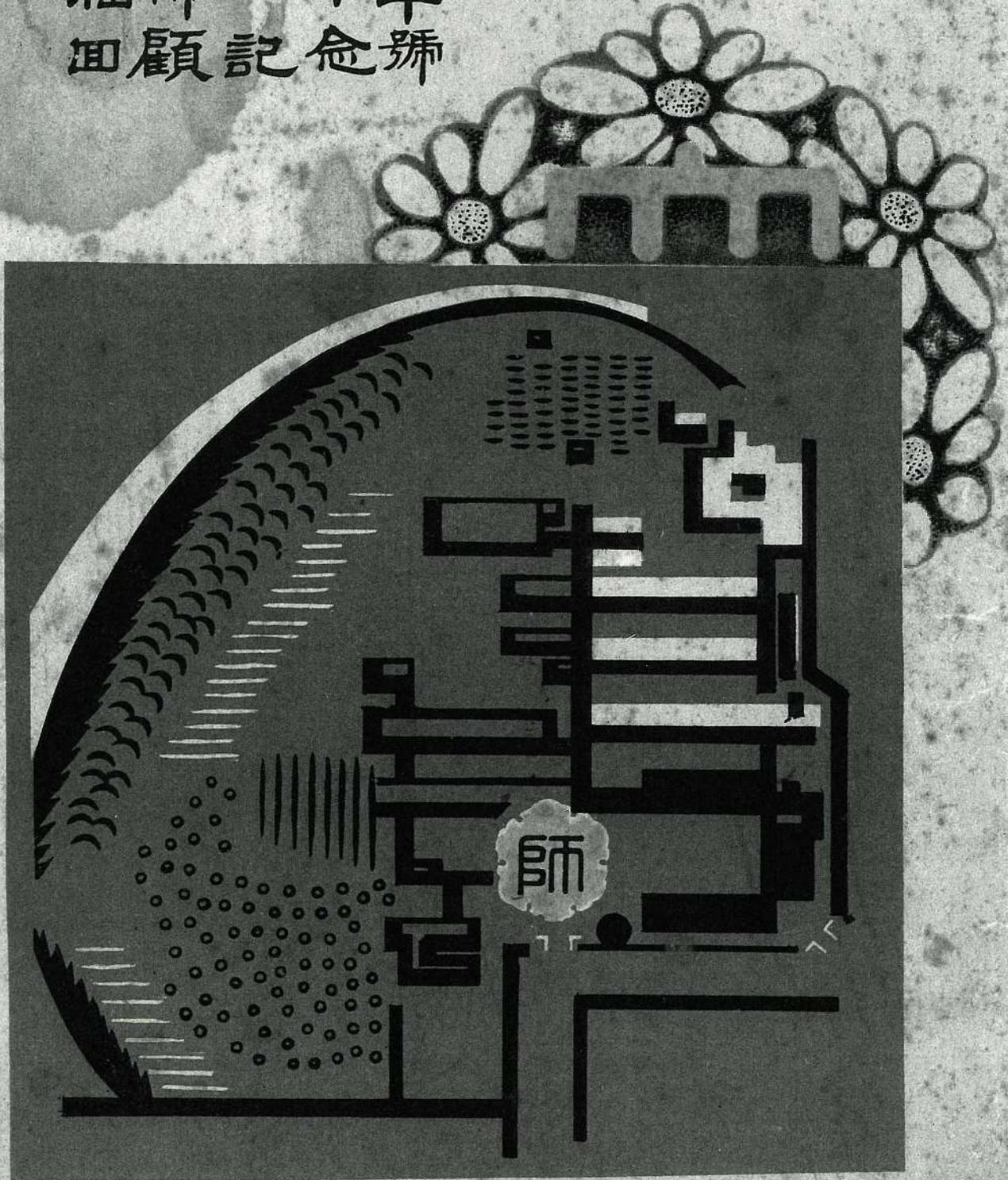


福應會誌

福師八十周年
回顧紀念號



昭和二十六年

福井の思出

理学博士 黒田チカ

私の福井赴任は明治三十九年四月で、それは時の師範学校長江尻庸一郎先生が女子部を設けたいから私に来てくれとの御依頼であつた爲めでした。その理由は私が佐賀師範女子部在学中江尻先生が校長であつて同女子部を大變お氣に召されたらしくて、福井にも同じく女子部を置きたい（古くは時々女子部の設けがあつたのを何かの都合でやめられてあつたのでこの時が殆んど創立のような意味）との御希望で、就いては佐賀の女子部と同様な風にしたことからとの御注文であつたのでした（例えば佐賀では縞の袴をはいていたからで福井でもやはり縞を用いる様にとそんな点まで実行されたのでした）。

私は東京女高師を卒業したばかりの二十二才の弱輩でありましたが先生の御熱心と御心添に引かれ、勇敢にも参つたのであります。無論先輩として木村よね姉が静岡から轉任して來られたのでした。同姉は同窓の大先輩であつたばかりでなく母校では大評判の才媛でありましたので非常に意を強うし又大喜びでした。同時に新任の男職員が相当ありました。高師研究科を出られた篠原助市氏（後で文部省督学官、東京文理大教授）は附屬主事として就任、藤井利譽氏は福島より教頭として就任（後に東京女高師附屬主事を經て東京市教育局長）、高師新卒業で北澤種一氏（後に東京女高師主事）、今井嘉橋氏、矢澤邦彦氏も着仕みな新進氣鋭の潑刺たる方々のお揃いのようにでした。先輩には物理化学に萱島榮氏（仕事の關係で格別御恩顧を蒙つたのでした）、博物に小林隆助氏（萱

島氏と共に御懇意願つたお一人）以上の方々はまだ御家族を同伴されな

いで学問や校務に専念せられた氣輕な学徒氣分が豊溢した感があり、私は最若輩として木村姉にお伴してテニスやピンポン、音楽などで男子部にまで進出し、又会食にも數回参加した記憶鮮やかなものがござります。一方生徒側の方面では甲種講習生（高等女学校卒業者を一年講習）本科一年（優秀な高等女学校在學生で轉校入學者も多かつたと記憶）、乙種講習生（本科の豫科に類したもの）の三種がありました。要するにいづれも希望に燃えた熱心な新入生の集りでお互緊張そのものの印象が深いのであります。寄宿舎は假りで福井市町外れの（勝負と記憶）紡績工場のを手入れしたものでした。私は舎監として寢食を共にしておりましたから時には生徒達と足羽川の河邊を散歩し、或は談笑した夕も數回でした。雪景色は九州育ちの私には珍らしく喜び眺めたものでした。

江尻校長は至つていんぎんな方でしたが職員懇親には極めて意を用いられ、五岳（料亭）で親睦の催しがあつたことなど夢の如く浮び出ますのも懐しい一つであります。

おもしろい物では、大きいかにとたことが今尙垂涎を催うさせ、又干きれいの數多くつりさげられたのも目に浮びます。若狹塗のお箸や箸箱、菜など記念の品でしたが戦災で跡かたもなく、又記念に求めた紋羽二重の重ねの紋服は式服として重寶でしたが戦災の犠牲となつたのは残念です。只半えり類の羽二重布片が今尙理研のひき出しに見えるのは嬉しい思出であります。尙格別の思出の一つにきれいに加工された黄赤色の雲丹がありました。勿体らしく桐の箱に納められ高価の物でしたが老父の好物であつたので度々送り喜ばせたものでした。最近化学研究上色素原

料として、うに棘を要するに当りこの記憶をたどりデパート經營で有名な坪川信一氏に願ひその御盡力により大に便宜を得ましたことを深く感謝致します。尙同材料採集をかね福井を訪れて同デパートの繁榮ぶりをも拜見したく手配されたのが急にその意を得なくて残念でした。当時の建物は火災や震災で失われても同氏不撓の御活動を信じ御繁榮を祈ります。

四十五年前の思出はおぼろげな筈ですが実は左様に感じません。私の地方就職は福井が唯一の場所であつたのと、女子部創設の意義と意氣込のせいでもあつたのでしよう、僅か一年の滞在もその印象は格別で決して消えません。

同三十九年の年末に母校から研究生推薦のかどにより再び學生に戻る様交渉があつた時、向上の機逸すなど江尻校長も木村姉も流石に鞭撻鼓舞された御好意は今尙感謝に堪えません。

かくて明治四十年四月福井惜別後學生となり續いて母校に就職し、更に仙台で五年の学究生活を經驗後再び母校の教壇に立ち、又更に外國の留學と交互に變化を繰返し歸朝したのであります。爾來母校の教壇で若き生徒を相手とし一方自己の勉強には恩師や学友と研究に暇ないうちに早や四十五年の歲月が流れたのであつて老いたに相違ありません。然し氣持だけは變りません。福井生活も無論意義あり楽しい場面の一つであることはいつわりない感じで御座います。

福井の風物は昔と變りないでしょう。その頃若かりし生徒の方々も圓熟されたに違ひありません。その後再会の機を得た方々は割合少數で廣部りうさんは教育界でひろく御活動中である故にしばしば面談の機あつたのは嬉しいことであり、山本キヨさんは東京在住で食糧に關係深

いので貴重な活動源となられたことを多謝致します。北川ふささんは令嬢の進學の關係で面談の機に接したことを喜ばしく感じます。

赤尾(舊姓)ゆるさんと東京で遭遇し、稻葉(舊姓)きくゑさん、岡見(舊姓)あささんと京都で出逢つた記憶が致します。甲種講習を上見きくさんは女高師で学ばれたがその後の消息は如何でしょう。乙種講習の川端とらをさんからは老年記念の品を頂いたが戦災で焼いたのは遺憾です。その他の方々の消息承りたし。

福井縣出身の職員田川晋次郎氏には寄宿舎事務の關係で相談役を願つたことを謝したいが故人となられ残念です。中谷文作氏は健在でしょうか。

女子部も女子師範に發展し今回師範が昇格して大學になることは目度い様である。名実伴う向上の実が上る様祈つて止みません。又皆様の御健康と御發展とを念じ、今一度訪問の好機あれかしと楽しみ待つことに致しましょう。

昭和二十年四月十九日認む